

6

交流拡大による活力創出プロジェクト

概要

イベントの開催や交流拠点の整備等を通じて交流を拡大し、県民の活力を創出・発信することにより、山口ならではの豊かさの創出につなげる。
 また、人やモノの流れの拡大を支えるため、空港、新幹線停車駅等を起点とする交通ネットワークの機能強化や、高速道路・国道・県道等の道路網の整備・充実を推進するとともに、海外自治体との交流やグローバル化に対応した多文化共生による地域づくりを進める

重点策

- 21 山口きらら博記念公園を拠点とした県民の活力の創出・発信
- 22 交流を活発化する交通ネットワークの機能強化
- 23 広域的な交通インフラの整備
- 24 国際交流の推進

(1) 成果指標の状況

成果指標	進捗状況	指標数	主な指標
	★★★★★ (目標を達成)		
★★★★ (計画を上回る)		2	山口きらら博記念公園年間利用者数 等
★★★ (ほぼ計画どおり)		2	山口宇部空港の国際便 (チャーター便を含む) の年間利用者数 等
★★ (計画を下回る)			
★ (計画から大幅に遅れ)			

(2) 県民実感に係る調査結果

調査区分	調査項目	そう思う	どちらでもない	そう思わない
県民実感度調査 (%)	新幹線や航空便の利便性や観光地等へのアクセスなど、交通ネットワークの充実が図られていると思いますか。	28.9	27.9	41.6
	山口きらら博記念公園における、イベントなどを通じた交流拡大の取組が進んでいると思いますか。	43.9	33.3	20.9

(3) 主な取組と成果

主な取組と成果

- ◆ **山口きらら博記念公園を拠点とした県民の活力の創出・発信**
 - 山口きらら博記念公園の交流拠点化に向けて「山口きらら博記念公園みらいビジョン」(R6.3月策定)に基づく施設整備等を実施中。
 - 山口きらら博記念公園を県内に元気と活力を創出する拠点としていくため、大規模イベント等を実施。
山口きらら博記念公園年間利用者数 16.0万人 (R3年度) → 92.3万人 (R6年度)
- ◆ **交流を活発化する交通ネットワークの機能強化**
 - 県内2空港 (山口宇部空港、岩国錦帯橋空港) は、航空会社や関係団体等と連携した利用促進キャンペーンやPR等に取り組んだことにより、4年連続で国内便の年間の利用者数が増加。中でも、岩国錦帯橋空港においては、沖縄便が牽引し、過去最高を更新している。
山口宇部空港の年間利用者数 85.7万人 (R5年度) → 87.1万人 (R6年度)
岩国錦帯橋空港の年間利用者数 47.4万人 (R5年度) → 52.3万人 (R6年度)
- ◆ **広域的な交通インフラ (産業や生活の基盤) の整備**
 - 交流を支える道路網等の整備を図るため、**幹線道路等の整備を着実に推進。**
 国道・県道の整備完了延長: 25km (R4~R6年度) → 目標: 50km (R4~R8年度)

◆ 国際交流の推進

- ベトナム・ビンズン省友好 10 周年記念事業や三県省道（山口県、中国・山東省、韓国・慶尚南道）交流事業を通じ、訪問団の派遣や意見交換等を実施し、相互の発展・交流拡大を推進。また、オンラインを通じた、在外県人会との交流を推進。
- 新たに、県、市町及び県国際交流協会を構成員とする「山口県多文化共生推進協議会」を設置し、多文化共生施策を総合的かつ計画的に推進するとともに、「やまぐち外国人総合相談センター」の運営や、オンライン日本語教室の開設、各種講座の開催など、**多文化共生による地域づくりに向けた取組**を推進。

多文化共生の推進が大変重要だと思ふ県民の割合 45.8% (R5 年度)

→ **53.2% (R6 年度)**

(4) 総評

総評

山口きらら博記念公園や県内 2 空港の利用者は順調に推移しているが、山口ならではの豊かさのさらなる創出につなげるため、山口きらら博記念公園の整備や交通ネットワークの機能強化、国際交流の推進などによる一層の交流拡大が求められる。

(5) 課題と今後の展開方向

課題と今後の展開方向

◆ 山口きらら博記念公園を拠点とした県民の活力の創出・発信

- 「山口きらら博記念公園みらいビジョン」に基づき、交流・集客拠点として施設を整備するとともに民間活力導入の取組を積極的に進めるほか、県民活動やスポーツ・文化をはじめとする様々な分野のイベントの開催や大規模イベントの誘致を行っていく必要がある。

◆ 交流を活発化する交通ネットワークの機能強化

- 県内 2 空港の国内便の利用者数は岩国錦帯橋空港においては沖縄便が牽引し過去最高を達成したが、一方で、両空港とも羽田便については、過去最高を達成した平成 30 年度（山口宇部空港：100 万人、錦帯橋空港羽田便：45 万人）には及んでおらず、引き続き、航空会社や関係団体等と連携した継続的な利用促進 P R 等が必要である。
- 旺盛なインバウンド需要を直接本県に取り込むため、山口宇部空港国際便のさらなる運航を目指し、エアポートセールスなど国際線誘致の取組を進める必要がある。

◆ 広域的な交通インフラ（産業や生活の基盤）の整備

- 観光旅行者の利便性、快適性、回遊性等を向上させるための観光ルートの形成や、観光地への交通アクセスを強化する必要がある。

◆ 国際交流の推進

- 国際交流の活発化に向けて、海外自治体との友好協定等に基づく取組を進めていくほか、外国人との共生社会の実現に向けた国の取組も踏まえ、本県における多文化共生による地域づくりについて、市町や関係機関等と連携しながら着実に進めていく必要がある。

(参考) 令和 7 年度の主な新規・拡充取組

新 2050 年の森集客促進事業

2050 年の森で驚きや楽しさを体験できるアプリを開発し、「交流拠点」、「集客拠点」としての機能強化を図り、2050 年の森への県内外からの集客を促進

拡 多文化共生総合推進強化事業

市町や関係機関等と連携し、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく「多文化共生」に向けた地域づくりを推進

新 「万福の旅」山口DCプロモーション事業（うち観光二次交通の充実強化）

公共交通機関と施設入場券等がセットになったデジタルパスの造成・販売や、広域観光周遊バスの通年運行などにより、本県の観光二次交通の充実強化を図り、山口DCの効果を高める受入体制を整備